

# モラージュ菖蒲

Mallage Shobu

No. 04-003-2010更新  
新築  
物販/飲食

発注者	特定目的会社 菖蒲プロジェクト	カテゴリー				
設計・監理	株式会社奥村組東日本支社一級建築士事務所 OKUMURA COPPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	株式会社奥村組	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 人と環境に優しい新たな大規模ショッピングセンター

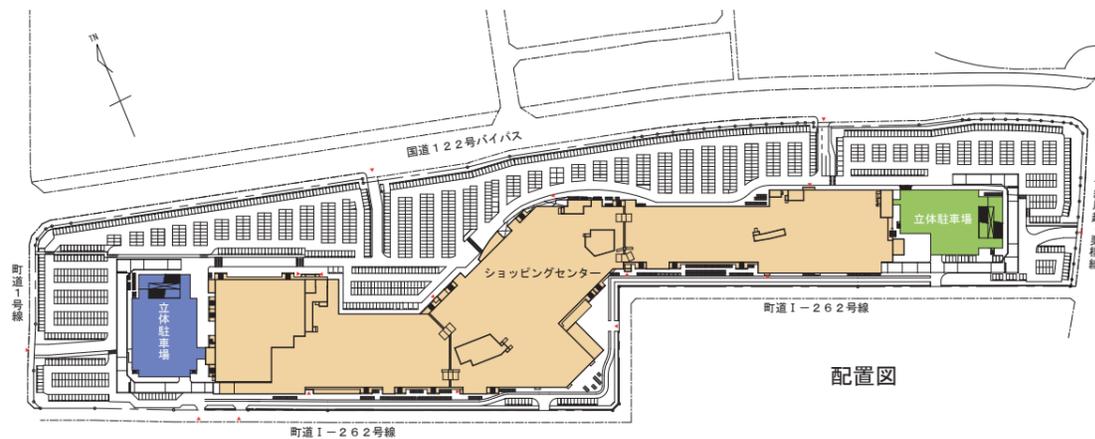
### 周辺地域に開かれた豊かなアメニティ空間の創出

周辺地域に開かれ、新しいコミュニティの拠点として地域活性化に貢献する大規模ショッピングセンター「モラージュ菖蒲」（埼玉県南埼玉郡菖蒲町大字菖蒲、S造、地上4階）が設計・施工により平成20年に竣工した。

本建物は、従来のショッピングセンターの機能にサービス・飲食店舗を充実させることにより、ショッピングだけでなく、娯楽・学芸・リフレッシュといった日常生活での交流の場となるような空間（アメニティ空間）を積極的に提供し、新たなコミュニティの形成を期待するショッピングセンターである。

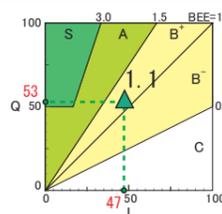
景観づくりへの配慮では、主要道路から十分に後退距離を確保した配棟、建物色彩を周囲の自然環境や「町の鳥」である白さぎなどをモチーフにアースカラーを基調として菖蒲町らしさを表現することにより周辺環境との調和を図っている。一方で、設備機器においては、氷蓄熱式空調システムの採用、モールでのLED照明の一部設置、後方通路でのセンサーによる照明制御等により環境負荷及びランニングコストの低減、さらには維持管理の軽減を図っている。

また建設時には、基礎梁の省略化を図った当社開発のダイレクトシーピー構法の採用により、掘削工事で発生する残土搬出を削減し、環境負荷を低減している。



外観(北東側)

建物データ	所在地 埼玉県南埼玉郡菖蒲町大字菖蒲	省エネルギー性能	PAL削減 18 % ERR (CASBEE準拠) 1.6 % LCCO <sub>2</sub> 削減 3 %	CASBEE評価	B+ランク BEE=1.1 2008年度版 自己評価
-------	-----------------------	----------	--	----------	-------------------------------------



### LED照明の採用

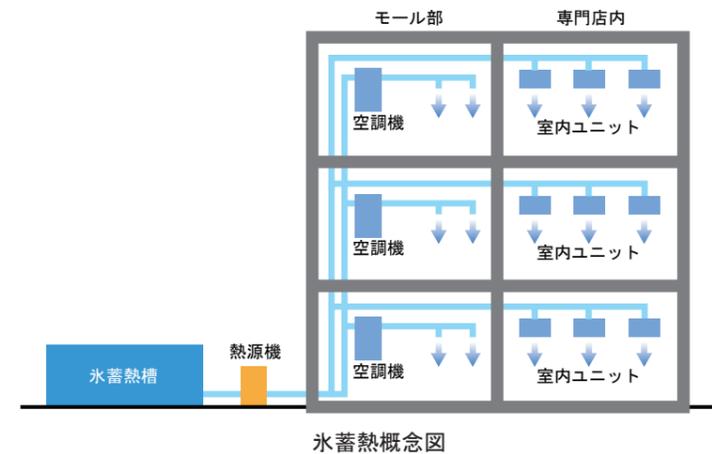
LED照明は、白熱電球や蛍光灯に比べ長寿命で維持管理費を軽減することができる。さらに、モールなどの一部照明にLED照明を採用することにより、発熱量や消費電力を抑え、熱負荷の低減を図っている。

また、効果的な配灯と機種選定により必要照度を抑え、モール部照明の消費電力を従来の5割程度削減している。

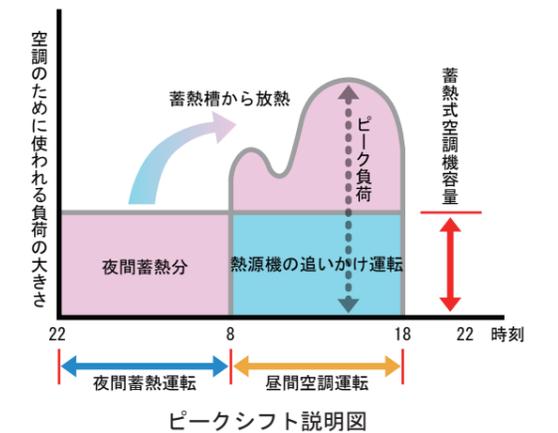
### 氷蓄熱式空調システム

空調設備に氷蓄熱式空調システム（中央蓄熱式）を採用することにより、機器の更新性向上と大幅なランニングコスト軽減を実現している。

また、氷蓄熱方式は、夜間の割安な電力により蓄えられた熱源エネルギーを施設利用量が多い昼間に利用するシステムであり、設備容量の縮小と高効率運転が可能となっている。



モール吹抜

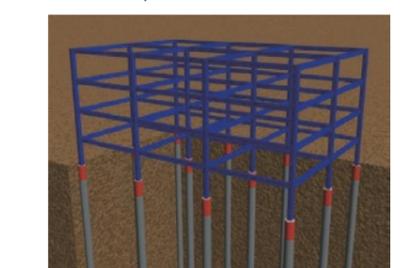
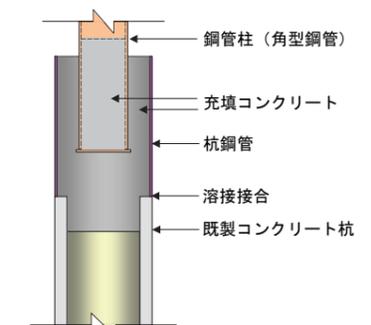


### ダイレクトシーピー構法

本構法は、「鋼管柱 (Column)」を「既製コンクリート杭 (Pile)」の上部に設けた鋼管コンクリート部に直接 (Direct) 埋込み、両者を一体化して1柱1杭で建物を支持する構法である。

「既製コンクリート杭」とその上部の「杭鋼管」を既製コンクリート杭の製作工場で接合した後、埋込み杭工法により地中に埋設する。杭を埋設後「鋼管柱 (角型鋼管)」を所定の位置・高さに設置し、充填コンクリートで接合部を一体化させる。

本構法を採用することにより、基礎梁およびフーチングが無く、上部構造と下部構造を一体化した架構を構築した。従来の杭基礎工法に比べ掘削土量や躯体量が少なくなり、残土搬出の削減や資源使用量の軽減ができ、環境負荷を低減している。



ダイレクトシーピー構法の構成・概念図

### 設計者

基本設計：株式会社類設計室一級建築士事務所  
実施設計・監理：株式会社奥村組東日本支社一級建築士事務所  
施設デザイン：株式会社ユーコム

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性 (設備の更新性)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (新たなシンボル形成)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (空間提供)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (氷蓄熱・LED照明)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (ダイレクトシーピー構法による残土削減)